

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 （政策）	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち			
施策	番号	4	名称	歴史文化を活用する観光の振興			
担当部	魅力創造部		担当課	観光政策課		部長名	山崎 貴浩
関係部	総合政策部		関係課	企画政策課			

2. 施策の基本方針（第3次総合計画の基本方針をもとに記入する）

この施策の目的	豊かな文化遺産と伝統的行事を観光資源として、それらの魅力をさらに引き出し、積極的に活用し、効果的にPRすることにより、多くの観光客が本市を訪れるとともに、市民が郷土に対する誇りを持ち、もてなしの心で観光客を迎えることで、人々の交流による賑わいと活気を生み出す。
---------	--

3. 施策の現状分析（第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する）

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	観光客を引き付ける魅力的なイベントの開催も必要であるが、一過性で終わることも多いため、年間を通して国の内外からの宿泊を伴う誘客に導く観光ルート（商品）の作成や体験型コンテンツなどの観光資源のブラッシュアップにも一層取り組む必要がある。また、そうした本市の魅力、「榎原ブランド」をあらゆる手段を講じて全国、世界へと発信していくこととともに、中南和、飛鳥川流域、竹内街道・横大路（大道）などの広域連携による観光力の底上げが求められている。	訪日客数は、2007年の8,346,969人から2017年の28,691,073人へと3.4倍以上に増加し、平成28年に「明日の日本を支える観光ビジョン」にて、2020年に訪日外国人旅行者数を4,000万人に到達させることを目標に掲げるなど、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取組みが行われている。また、県内でも宿泊者増に向けた取組み、Wi-Fiの整備や海外に向けたプロモーションなどのインバウンドの取組みが進められている。
これまでの成果	「春の神武祭」は、市民、団体の参画、来場者が年々増加し定着しつつある。また、首都圏でのシンポジウムの開催や、雑誌広告の掲載、海外旅行業者との商談会などで「榎原ブランド」を発信した。インバウンド対応では、今井町全域でのWi-Fi整備、在日中国人へのバスツアー開催や官学連携による外国語の観光防災マップの作成を行うなどの取り組みを行った。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	28年度	29年度		30年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標① （成果指標）	観光客総数	5,432,382	4,800,000	4,754,894	4,900,000	
	施策指標② （成果指標）	ボランティアガイド案内人数	6,566	8,200	6,995	8,700	
	施策指標③ （成果指標）	観光交流センター来訪者数	300,099	300,000	341,935	350,000	
	施策指標④ （成果指標）						
	施策指標⑤ （成果指標）						
コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出 （直接事業費）(a)		246,840	304,113	284,386	235,423	
	歳入 (b)	受益者負担額	426	500	249	600	
		受益者負担額以外の歳入（補助金等）	1,419	20,778	14,760	22,839	
	(a) - (b) = 一般財源		244,995	282,835	269,377	211,984	
	正職員	従事者数 （単位：人）	7.20	7.20	7.10	7.50	
		人件費(c)	41,090	41,090	41,272	43,598	
トータルコスト (a) + (c)		287,930	345,203	325,658	279,021		

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度かどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性かどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	「榎原ブランド」の全国への発信においては、首都圏シンポジウム、雑誌広告の掲載などに取り組み、「榎原」の露出、知名度のアップにつなげたが、今後も露出を増やす取組みが必要である。インバウンドについても、バスツアー参加の中国人からは概ね好評を得てSNSでの発信による新しい観光客造成に繋がる。また、Wi-Fiを充実させることは、外国人が周遊する上で安心感に繋がり、さらなる観光客の誘客の拡大につなげることができる。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	観光客数は緩やかではあるが、着実に伸びている。魅力ある事業、周遊型の事業を展開するとともに、効果的なPR発信を行うことにより、さらなる観光客の増加に繋がる。また、新たな宿泊施設の完成により宿泊による滞在時間の長期化が図られ、榎原市に対する経済効果も期待される。加えて、榎原市の魅力を発信することにより、市のイメージを高め、市民の方には新たな価値を感じてもらい、郷土愛の醸成や自らが発信したくなるようなまちづくりへとつなげ、定住促進への効果を高めることができる。				

6. 施策の課題

この施策の課題	魅力あるイベントの開催、素晴らしい観光名所とそれをつなぐルートの創生、さらに外向きの情報発信により誘客につなげるものではあるが、予算にも限りがあることから本市の特性、観光資源を有効に活用し、最大限の効果を生むように10年先、20年先を見据えた施策の方向性を定める必要がある。そのため、観光施策の指針として平成29年6月に策定された観光基本計画に基づく個別事業の検証や事業の確実な実施が必要となる。
---------	--

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	平成30年2月に八木駅前に新しくホテルがオープンし、大和八木駅はますます中南和の玄関口として重要な役割を果たすことになる。これを機に、関係機関、団体、マスコミ、交通事業者などとさらに連携を強め、魅力あふれる誘客事業、「榎原ブランド」の情報発信事業を国内にとどまらずインバウンド対応として展開していく。また、その事業実施にあたっては、観光基本計画に基づき、有効性の検討を行った上で各事業の見直しを行い実施していく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	各観光事業は、基本的には観光基本計画に基づき計画的な事業実施を行う。春の神武祭等のイベントも開催内容を見直しながらPR拡大を図る。観光啓発は、経済効果の高い宿泊を伴う誘客を進めるため、インバウンドや全国に向けた効果的な観光PRと観光客の満足度を高め、リピーターにつなげる着地型周遊プランの作成を行う。また、情報発信には、PR動画を作成し、youtube、SNSなど効果の高いものを利用し発信していく。施設の適正な維持管理や運営は、利便性を考慮しつつ継続し、わかりやすく統一された案内サインを整備し広域的な周遊観光の実現を目指す。市内の各種行事は、内容やスケジュールの告知を各種媒体で行い、伝統的行事等への理解を深め、保存や継承を促していく。また、近隣市町村との連携を強化した広域観光による魅力発信を継続的に行うことにより地域全体の観光力向上、誘客数の増加を図る。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

この施策に関する事務事業評価の内容(評価内容の転記)							施策評価			戦 略	大 綱
No.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H29決算額	貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)					
1	企画政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●冊子の販売促進・管理 <ul style="list-style-type: none"> ・冊子「藤原京と大宝律令」、「榊原いろはかるた」(平成14年度作成) ・古道図書「歴史の道を行く」(平成20年度作成) ・古道絵はがき(平成23年度作成) ●市政情報発信事業 <ul style="list-style-type: none"> ・放送媒体の利用によるPR ・市政情報についてのラジオ特別番組の制作及び放送 	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	C	○				
	榊原の魅力発信事業 (ソフト(任意))		2,970 (千円)								
2	観光政策課	(一社)榊原市観光協会が観光の担い手となるよう、協会の運営や事業に必要な市で定めた額を助成する。 ○榊原市観光協会運営補助金 ○榊原市観光事業補助金(観光ボランティアガイド運営事業・榊原市観光親善大使「さら姫」の選出及び運営事業・レンタサイクル運営支援事業・ナビプラザ物販運営補助事業など。)	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	B	○				
	(一社)観光協会運営・事業助成補助事業 (ソフト(任意))		33,244 (千円)								
3	観光政策課	複合施設である観光交流センターを管理運営する。 全館の建物管理と観光センター(1・2階)の運営を行う。	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける		○				
	榊原市観光交流センター管理運営業務 (内部管理・維持管理)		117,375 (千円)								
4	観光政策課	①案内道標、観光案内版、道路標識等の設置・管理 ②今井町夢ら咲長屋の借上げ及び夢ら咲長屋、藤原京資料室への案内人の配置 ③観光トイレ等の建物管理 ④奈良文化財研究所藤原宮跡資料室の休日開館に関する案内及び警備業務	1 拡大する	a	拡大する		○				
	観光利便施設事業 (内部管理・維持管理)		16,814 (千円)								
5	観光政策課	市内各地で開催される行事を①広域的域域催行事②伝統的芸能行事③歴史的顕彰行事の3つのカテゴリーに分類し、行事を主催する団体に事業費の助成を行う。また、ソフト面の支援として各行事の開催内容やスケジュールの告知を市ホームページ、マスメディア、観光交流センターLEDビジョンを通じてPRする。 さらに、夢の森フェスティバルに関しては、実施団体である榊原夢の森フェスティバル実行委員会に事業費の助成を行うとともに、市も実行委員会の一員として、その事務に従事する。	2 現状のまま継続	b	見直しなが ら続ける	D	○				
	各種行事補助金交付事業 (ソフト(任意))		11,862 (千円)								
6	観光政策課	1.「春の神武祭」:春の神武祭の実施団体で、市も主要構成員である春の神武祭実行委員会に事業費の助成を行い、その事務の過半を担う。 2.「大規模集客イベント」:市内観光資源のPRを目的に、ターゲットとなる市外・県外から多数の誘客を図れる催事を実施する。 3.「町家・旅籠の集い」:伝統的な町並みを有する今井町及び八木町のPRを目的として、華葦及び札の辻交流館で、日本の伝統的な芸能について公演を実施する。	3 縮小する	b	見直しなが ら続ける	C	○				
	観光イベント実施事業 (ソフト(任意))		38,610 (千円)								
7	観光政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口や電話、メール等での観光案内や観光問い合わせの回答 ・観光プロモーション(駅貼りポスター・雑誌掲載) ・観光マスコットキャラクター・グッズ作成による観光PR ・観光パンフレットの作成配布 ・大都市圏での誘客事業 ・観光商品の創生(H28はインバウンドバスツアー) ・大和三山の眺望確保(H28は香具山) ・かしはらお散歩クーポン(周遊助成) ・フリーWi-Fiスポットの増設 	1 拡大する	a	拡大する	B	○				
	観光啓発事業 (ソフト(任意))		40,806 (千円)								
8	観光政策課	中南和地域の市町村や下記団体と連携し、観光情報の発信や普及活動を実施する。 ・竹内街道・横大路(大道)活性化実行委員会 ・歴史街道推進協議会(飛鳥-奈良-京都連携) ・中南和広域観光協議会 ・奈良県(インバウンド・修学旅行・記紀万葉・大立山等) ・奈良県ビクターズビューロー ・飛鳥認定通訳ガイド育成事業	1 拡大する	a	拡大する	A	○				
	広域連携事業 (ソフト(任意))		5,195 (千円)								

※下記評価の解説

- ・貢献度-事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a:不可欠かつ施策の中核をなす事業、b:不可欠ではないが実施が望ましい事業、c:不可欠ではないが実施が望ましい事業、d:あまり有効ではない事業)
- ・方向性-事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながら続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)-施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価			戦 略	大 綱
NO.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H29決算額	貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)		
9	観光政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・観光統計実態調査の実施及び分析 ・観光基本計画案の作成 ・橿原市観光基本計画策定審議会の開催 ・パブリックコメントの実施 ・ロードマップの作成 ・事業者向け橿原市観光基本計画説明会の実施 ・進捗管理 ・取組み内容の見直し 	2 現状のまま継続	b	見直しな がら続け る		○	
	観光基本計画策定・管 理事業 (内部管理・維持管理)		17,510 (千円)					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年6月5日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業				
P L A N 計 画	事務事業名	橿原の魅力発信事業						
	担当部名	総合政策部	担当課名	企画政策課	課長名	中井 孝		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち				
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興				
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす				
		基本的方向	①	「橿原」の魅力を広く発信する				
	行革大綱の位置付け	重点項目						
		項目						
		改革名						
	予算事業名	シティセールス推進事業費						
事業の開始年度	平成	14	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
対象	市民・県民・国民			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ●冊子の販売促進・管理 ・冊子「藤原京と大宝律令」、「橿原いろはかるた」（平成14年度作成） ・古道図書「歴史の道を行く」（平成20年度作成） ・古道絵はがき（平成23年度作成） ●市政情報発信事業 ・放送媒体の利用によるPR ・市政情報についてのラジオ特別番組の制作及び放送 			
事業の目的	橿原の魅力を発信することで、橿原に関心を持つ人や、来訪者の増加を図る。 また、市民の方には、橿原市が魅力あるまちであることを再認識してもらう。							
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
		2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）					
	説明	市の魅力をPRする事業であるため、市が積極的に取り組んでいくべきものである。						
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
説明	書籍等の販売を中止すると、当初見込んだ収益が得られなくなる上に、在庫を抱えてしまうことになる。							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度	30年度	31年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	販売数		131	200	201	200	200
	活動指標①	イベント販売回数			1			
	活動指標②	販売店舗数		8	4	4	4	4
	コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出（直接事業費）（a）		78	2,970	2,970	2,900	
		歳入（b）	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）					
		(a) - (b) = 一般財源		78	2,970	2,970	2,900	
正職員		従事者数（単位：人）		0.15	0.10	0.25	0.70	
		人件費（c）		856	571	1,453	4,069	
トータルコスト（a）+（c）		934	3,541	4,423	6,969			
単位当たりコスト	計算式等 () / ()							
備考								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
		説明	古道図書、藤原京と大宝律令及び古道絵はがきの販売総数は、昨年度よりも減少している。市政情報発信業務は、ラジオ特別番組を聴取者の多い時間帯にタイムリーな情報を放送しており広範囲に情報を発信している。				
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
		説明	市外の人々に市の歴史・史跡等に関心を持ってもらうことで、来訪者の増加につながり、観光の振興に寄与すると考えられる。				
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない	
		説明	販売を促進していくことで、歳入の増加をはかる。ラジオ番組制作費用は、交渉等により経費の削減に努めていく。				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。	販売店等の意見を取り入れて、販売促進に努める。 市政情報発信業務は、番組の告知を行い、聴取者数の増加を図る。					
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度
4 廃止又は休止する				5 完了する			
	説明	市が実施するイベントや書店等での販売を今後も継続していく。 市政情報発信業務は、コストの削減と有効性の向上を図りつつ、継続して取り組んでいく。					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 5日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業				
事務事業名	（一社）観光協会運営・事業助成補助事業							
担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人			
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
	施策	4	歴史文化を活用する観光の振興					
総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす					
	基本的方向	①	「橿原」の魅力を広く発信する					
行革大綱の位置付け	重点項目							
	項目							
	改革名							
予算事業名	観光交流センター管理運営業務							
事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成 - 年度			
対象	一般社団法人 橿原市観光協会		事業の内容説明	（一社）橿原市観光協会が観光の担い手となるよう、協会の運営や事業に必要な市で定めた額を助成する。 ○橿原市観光協会運営補助金 ○橿原市観光事業補助金（観光ボランティアガイド運営事業・橿原市観光親善大使「さらら姫」の選出及び運営事業・レンタサイクル運営支援事業・ナビプラザ物販運営補助事業など。）				
事業の目的	（一社）橿原市観光協会が、観光立市を目指す橿原市にふさわしい事業を展開する観光の担い手になるとともに、協会事業により多くの観光客を集客することを目的とする。							
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
		2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）					
	説明	・橿原市補助金等交付規則 ・観光施策における行政が観光企画を行い、（一社）橿原市協会が事業を実施するという役割分担を進めていくうえで、協会の財政基盤が整っていない現状では、市の関与が必要である。						
	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
説明	財政基盤が弱い協会では、人員削減、事業縮小となり、観光の担い手としての役割を果たせない。							
DO実施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度	30年度	31年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	協会事業数		27	24	24	24	24
	活動指標①	協会HPのアクセス数		85,000	90,000	77,610	95,000	100,000
	活動指標②	ボランティアガイド案内客数		6,566	7,000	6,995	8,000	8,500
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出（直接事業費）(a)		35,508	33,322	33,244	41,272	
		歳入(b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）					
		(a) - (b) = 一般財源		35,508	33,322	33,244	41,272	
正職員		従事者数（単位：人）	0.25	0.45	0.30	0.65		
		人件費(c)	1,427	2,568	1,744	3,778		
トータルコスト(a) + (c)		36,935	35,890	34,988	45,050			
単位当たりコスト	計算式等 () / ()							
備考								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	急激な発展は望めないが成果は着実に向上している。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	協会は、本市観光施策における事業（誘客事業、観光ボランティア事業、観光親善大使「さらら姫」事業、春の神武祭等）の担い手として観光振興に大きく寄与している。また、観光案内所神宮前ナビの開設により更なる効果的な情報発信が期待できる。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	協会事業の拡大等により、協会員数の増加や事業収益の拡大などが図られれば補助率を下げることとなるが、現状では難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		協会が本市の観光事業の担い手という役割分担を進めていく上で、既存のHPや、八木駅前の「ナビプラザ」、新しく開設した「神宮前ナビ」での多彩な観光情報の発信、観光イベントの開催などを行うことで、より多くの観光客を集め、協会会員数の増加や事業収益の獲得へと結びつけることが可能となり、その結果、財源面での協会の自立を進めることになる。						
修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
		説明	4 廃止又は休止する						
		説明	既存事業をもとに、時流に応じ変化に富んだ業務を実施するとともに、協会の自主性を高めていく。さらに、平成30年開館予定の新庁舎と連携した観光拠点としての機能を充実させていき、観光客の誘客を進めていく。						

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年6月5日）

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	橿原市観光交流センター管理運営業務								
	担当部名	魅力創造部		担当課名	観光政策課		課長名	細川 長人		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5		人と文化がふれあうまち					
		施策	4		歴史文化を活用する観光の振興					
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-2		新たな人の流れや交流を増やす					
		基本的方向	②		来訪者の増加を図る					
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	観光交流センター管理運営業務								
事業の開始年度	平成	23		年度	事業の終了予定年度	平成			年度	
対象	橿原市観光交流センター				事業の内容説明	複合施設である観光交流センターを管理運営する。全館の建物管理と観光センター（1・2階）の運営を行う。				
事業の目的	橿原市観光交流センターを広域的な観光拠点とすることで、観光客の利便性を向上するとともに、市民交流の場として賑わいを創造することを目的とする。									
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）								
	説明									
	やめた場合の影響は	1 非常に大きい		2 やや大きい		3 克服できる範囲内		4 ほとんど無い		
説明										
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	利用者数（全館）			300,099	305,000	341,935	345,000	350,000	
	活動指標①									
	活動指標②									
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			98,025	54,890	117,375	55,826		
		歳入(b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			98,025	54,890	117,375	55,826		
正職員		従事者数（単位：人）			0.80	0.80	0.60	0.35		
		人件費(c)			4,566	4,566	3,488	2,035		
トータルコスト(a) + (c)			102,591	59,456	120,863	57,861				
単位当たりコスト	計算式等 () / ()									
備考	平成29年度は平成28年12月に発生した延焼被害の復旧工事に費用を要した。									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	平成23年度4月末の開館以来、想定数以上の利用者があり、順調に観光拠点・市民交流の場という目的を果たしている。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	観光交流センターのある大和八木駅前、公共交通機関やバスツアーなどの出発地としての機能や、新分庁舎のオープンによってさらに県中南和の玄関口としての顔となることで、橿原市の観光事業においても、観光交流センターの貢献度は高い。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	観光拠点としての機能の充実、コスト削減を模索していくと同時に、ミグランスにオープンした観光支援室との連携を深めながら、業務の効率化を図る必要がある。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		<ul style="list-style-type: none"> ・今までの業務や取り組みの見直し、より効果的な施設運営の手法を確立する。 ・2階イベントスペースでの企画、大型LEDビジョンの有効活用、1階観光センターと物産コーナーの展開などを通じて、奈良県中南和地域の観光拠点・市民交流の場としての機能を発揮する。 ・観光支援室との連携により利便性の向上を図る。 						
修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する	平成30年度も橿原市観光協会が継続して指定管理者として管理していく。今後は、コスト削減を模索していくと同時に、観光支援室と連携し、中南和の観光拠点としての機能を充実させていく。				

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 5日）

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	観光利便施設事業									
	担当部名	魅力創造部		担当課名	観光政策課		課長名	細川 長人			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興							
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす							
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る							
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名										
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度				
対象	観光施設			事業の内容説明	①案内道標、観光案内版、道路標識等の設置・管理 ②今井町夢ら咲長屋の借上げ及び夢ら咲長屋、藤原京資料室への案内人の配置 ③観光トイレ等の建物管理 ④奈良文化財研究所藤原宮跡資料室の休日開館に関する案内及び警備業務						
事業の目的	快適な観光を楽しめるよう観光客の利便性の向上を図ることを目的とする。										
D O 実 施	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）								
	市の関与の必要性を評価してください	説明									
		やめた場合の影響は	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度		
					実績	計画	実績	見込み	見込み		
	成果指標	施設案内数（夢ら咲長屋・藤原資料室・奈文研）			36,675	38,000	36,530	38,500	39,000		
	活動指標①	案内道標設置数			123	123	124	149	149		
	活動指標②										
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			26,812	103,662	16,814	43,694			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）				4,846	2,032	20,950		
		(a) - (b) = 一般財源			26,812	98,816	14,782	22,744			
正職員		従事者数（単位：人）			1.00	1.15	0.85	1.00			
		人件費(c)			5,707	6,563	4,941	5,813			
トータルコスト(a) + (c)			32,519	110,225	21,755	49,507					
単位当たりコスト	計算式等 () / ()										
備考	平成29年度当初予算ではミグランス10階の展望室に観光設備の工事を予定していましたが、未執行となりました。										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	施設での観光案内数は伸びていることから、成果の向上が認められる。 大和八木駅南側シェルター内に観光案内ステッカーを貼ることで、観光地への案内の向上が図れた。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	観光客が迷わず目的地に着き、専門ガイドによる十分な説明を受け、清潔なトイレを利用できることで、観光の振興に大きく貢献する。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	トイレの管理や案内所での案内は、ボランティアの要素が大きく、コスト低減の余地はない。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		観光案内板の更新を進めるとともに、今後は奈良県周遊ウォークルートの案内サインの整備や県の文化資産活用補助金を活用して、市内の観光スポットを歩いて周遊しやすい環境を整えていく。これにより広域を周遊して訪れる観光客の増加を期待できる。 観光施設については、今後も適正な管理に努めるとともに、不具合が生じた場合には、即対応できるよう引き続き施設の状況を常に把握する。これにより、観光客の利便性を維持していくことができる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	案内看板等の設置には費用が高むが、施設の適正な維持管理や運営を継続して行うと共に、飛鳥地方の統一看板や奈良県周遊ウォークルートサインを順次設置することで広域的な周遊観光の実現を目指す。					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 5日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業					
P L A N 計 画	事務事業名	各種行事補助金交付事業							
	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興					
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる					
		基本的方向	④	歴史と風土を活かしたまちづくり					
	行革大綱の位置付け	重点項目							
		項目							
		改革名							
	予算事業名	各種行事助成事業費							
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度		
対象	広域的地域催行事（春の神武祭を除く）、伝統的芸能行事、歴史的顕彰行事			事業の内容説明	市内各地で開催される行事を①広域的地域催行事②伝統的芸能行事③歴史的顕彰行事の3つのカテゴリーに分類し、行事を主催する団体に事業費の助成を行う。また、ソフト面の支援として各行事の開催内容やスケジュールの告知を市ホームページ、マスメディア、観光交流センターLEDビジョンを通じてPRする。 さらに、夢の森フェスティバルに関しては、実施団体である榎原夢の森フェスティバル実行委員会に事業費の助成を行うとともに、市も実行委員会の一員として、その事務に従事する。				
事業の目的	榎原市内で開催される広域的地域催行事、伝統的芸能行事、歴史的顕彰行事を保存し、後世に継承すること、及び、これらを観光資源としてPRすることを目的とし、事業費の助成を行う。								
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）						
		説明	近年、担い手が減少し、その存続が危ぶまれている市内各地域の伝統的な行事は、一度途絶えてしまうと復活は困難であり、かけがえのない地域の観光資源としての価値を有する本市に固有の伝統や文化を後世に継承することは市の責務であるといえる。						
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
説明	各地域で伝統的行事等への参加者（特に児童）の減少や実施団体の高齢化で事業費の捻出が困難になること、見学者の増加による警備費等の経費も大きな負担となっていることから、資金難により行事が存続できなくなる可能性がある。								
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度
					実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	伝統的行事見学者数（ほづらんや+練供養）			6,100	6,100	5,500	6,200	6,200
	活動指標①	補助対象行事開催件数			15	15	15	15	15
	活動指標②	夢フェス実行委員会回数（幹事会回数）			6	6	6	6	6
	コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出（直接事業費）（a）			11,862	11,862	11,862	11,862	
		歳入（b）	受益者負担額						
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）						
		(a) - (b) = 一般財源			11,862	11,862	11,862	11,862	
正職員		従事者数（単位：人）			0.30	0.30	0.50	0.70	
	人件費（c）			1,712	1,712	2,907	4,069		
トータルコスト（a）+（c）			13,574	13,574	14,769	15,931			
単位当たりコスト	計算式等 () / ()								
備考									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	行事案内や開催スケジュールを各種媒体を通じて告知することにより、市外・県外へ周知することができている。しかし、少子高齢化や、地域的に進行する過疎化の影響で継承が困難になりつつある行事もある。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	地域の伝統的な文化の継承に寄与するとともに、行事等の内容、開催スケジュールの告知の強化により県外からの見学者も増加し、「橿原」の魅力を広く発信できており、かつ、歴史文化を活用するという総合計画の趣旨にも合致するものである。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
		説明	効率性は高いものの、今後は補助率の設定や補助対象経費の精査などを通じてさらなる効率化を図ることが可能である。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		伝統的行事や祭礼は、いったん途絶えてしまうとその復元は困難を極めることから、必要十分な支援を実施することで、市の歴史や文化を保存し、継承していくことが可能となる。なお、夢の森フェスティバルのように、各種団体が主体的に実施するものに対しては、行政として、本事業の目的に資する範囲内において積極的に助成することで、高い効果が期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	C
説明		祭事の継続を前提として、事業費の一部として適正な金額を助成していくとともに、行事内容や開催スケジュールの告知を各種媒体を通じて行うことにより、本市の伝統的行事等への理解を深め保存や継承を促していく。								

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 5日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業						
P L A N 計 画	事務事業名	観光イベント実施事業								
	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人				
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興						
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす						
		基本的方向	①	「橿原」の魅力を広く発信する						
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	各種行事助成事業費・観光対策費								
事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
対象	市外・県外からの観光客			事業の内容説明	1. 「春の神武祭」：春の神武祭の実施団体で、市も主要構成員である春の神武祭実行委員会に事業費の助成を行い、その事務の過半を担う。					
事業の目的	主催者として、また、地域の各種団体が主体となる組織に参画すること及び助成することで大規模イベントを実施し、市外・県外からの誘客を図り、本市の観光資源に来訪者が触れる機会を創出し、観光啓発を推進するもの。				2. 「大規模集客イベント」：市内観光資源のPRを目的に、ターゲットとなる市外・県外から多数の誘客を図れる催事を実施する。					
市の関与の必要性を評価してください	妥当性評価	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
	なぜ市が関与しているのか		2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	説明	観光客誘致と地域活性化を主眼としてイベントを実施する以上、本来は、行政主導を廃し民間の自立を促すべきものであるが、これまでの経緯から市が関与しているのが現状である。								
やめた場合の影響は	3	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
説明	「春の神武祭」「夢の森フェスティバル」は橿原市を代表する春・秋の一大イベントで、イベントそのものの廃止は困難だが、行政の過剰な関与を廃することは事業の本来の目的に資することで、その意味で影響は克服できる範囲であり、むしろ克服すべきものと考えられる。									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	来場者数（神武祭）			53,300	32,400	36,500	35,000	37,000	
	活動指標①	神武祭チラシ配布数			170,750	185,500	153,000	185,000	185,000	
	活動指標②									
	コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）（a）			39,755	38,754	38,610	28,529		
		歳入（b）	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			39,755	38,754	38,610	28,529		
正職員		従事者数（単位：人）			1.55	1.30	0.95	1.00		
		人件費（c）			8,846	7,419	5,522	5,813		
トータルコスト（a）+（c）			48,601	46,173	44,132	34,342				
単位当たりコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
		説明	「市外・県外からの誘客を図り、本市の観光資源に来訪者が触れる機会を創出し、観光啓発を推進」という事業の目的に照らした場合、市内又は近隣市町村からの来場が大多数を占めている実態は、十分な成果が出ているとは言い難く、ターゲットに訴求するよう改善が必要である。				
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
		説明	歴史・文化を活用し、「橿原」の魅力を発信するという上位施策に対し貢献できるよう、できる限り「歴史・文化」を用いた事業となるよう修正してきつつあり、今後一層の努力が求められる。				
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	3	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない	
		説明	来場者に係る各種データの分析から、イベントの実施形態（主催/共催/補助等）を精査し、ターゲットに応じた広報やコンテンツとすることでより一層効率性を高められると判断できる。				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		春の神武祭については、「お祭り」の位置付けとするのか、「イベント」の位置付けを継続するのかを明確にすることで、より効果的で機動的な事業に改善することが可能となる。大規模集客イベントに関しては、単年度毎にターゲットや場所を変更して実施することは非効率であることから、ある程度内容を固定化し、事前準備期間を長く取ることで、より緻密な組み立てで高い費用対効果が見込める。なお、町家・旅籠の集いに関しては、費用対効果及び来場者満足度のいずれも非常に高く、行政実施のイベントとして理想的なものである。				
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	3	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度
説明			今年度策定される観光基本計画においては、ターゲットや効果を精査し縮小していくこととされているが、これは一律的な縮小ではなく、一過性のイベントとは異なるターゲットを限定しプロモーションの枠組みやブランド確立といった位置付けの中で効果的に実施されるべきことを意味している。				

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年6月5日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業				
P L A N	事務事業名	観光啓発事業						
	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち				
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興				
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす				
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る				
	行革大綱の位置付け	重点項目						
		項目						
		改革名						
	予算事業名	観光対策費						
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度	
対象	観光客及び一般の人			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口や電話、メール等での観光案内や観光問い合わせの回答 ・観光プロモーション（駅貼りポスター・雑誌掲載） ・観光マスコットキャラクター・グッズ作成による観光PR ・観光パンフレットの作成配布 ・大都市圏での誘客事業 ・観光商品の創生（H28はインバウンドバスツアー） ・大和三山の眺望確保（H28は香具山） ・かしはらお散歩クーポン（周遊助成） ・フリーWi-Fiスポットの増設 ・その他、書籍等の販売、各種加盟団体への参加、調査研究 			
事業の目的	本市の歴史的遺産等の魅力を幅広くアピールすることで、多くの潜在的観光客が本市の観光資源に関心を持ち、観光に訪れることを目的とする。							
市の関与の必要性を評価してください	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業				
			2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）				
	説明	市が企画し、観光協会が実施するという役割分担のもと観光事業を進めている。						
	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
	説明	観光立市を掲げている本市において、事業をとりやめることで誘客が滞り、観光客が減少する。						
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度		30年度	31年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	観光客数		5,438,907	4,800,000	4,754,894	4,900,000	5,000,000
	活動指標①	観光パンフレット配布数		207,232	210,000	184,544	215,000	220,000
	活動指標②	誘客（委託）事業実施件数		5	7	7	7	7
	コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出（直接事業費）（a）		28,032	51,523	40,806	44,599	
		歳入（b）	受益者負担額		426	500	249	600
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）		1,419	15,932	12,728	1,889
		（a） - （b） = 一般財源		26,187	35,091	27,829	42,110	
正職員		従事者数（単位：人）		1.05	1.20	1.65	1.20	
		人件費（c）		5,992	6,848	9,591	6,976	
トータルコスト（a） + （c）		34,024	58,371	50,397	51,575			
単位当たりコスト	計算式等 （ ） / （ ）							
備考								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	事業の積み重ねにより、観光客が増加している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	誘客のための観光啓発が観光行政の根幹をなす事業であることから、観光の振興に大きく貢献している							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	事業実施に当たっては、単に金額の多寡のみで業務委託できないため、コストの低減は難しい							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		平成30年度から、かしはら宿泊クーポンを発行し、宿泊客の増加と再来訪を促進する。また、様々な媒体への広告掲載や、首都圏においてシンポジウムを開催することで橿原・飛鳥地方を魅力を発信し、首都圏の潜在的観光客に本市来訪の動機付けを行う。さらにCIR職員（国際交流員）を雇用することでSNSによる情報発信やHP、観光パンフレットの外国語訳などによりインバウンド推進を目指す。また中中和広域観光推進協議会により中中和地域の一体的な観光の魅力を発信することで、橿原が中中和観光の拠点としての機能を充実させる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
説明			4 廃止又は休止する							
		説明	経済効果の高い宿泊を伴う誘客を進めるため、首都圏のインバウンド事業主をターゲットとした効果的な観光PRを実施するなど、事業を拡大し実施していく。							

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月5日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	広域連携事業								
	担当部名	魅力創造部		担当課名	観光政策課		課長名	細川 長人		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興						
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす						
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る						
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	観光対策費								
事業の開始年度	平成	-	年度	事業の終了予定年度	平成	-	年度			
対象	観光客及び一般の人			事業の内容説明	中南和地域の市町村や下記団体と連携し、観光情報の発信や普及活動を実施する。 ・竹内街道・横大路（大道）活性化実行委員会 ・歴史街道推進協議会（飛鳥-奈良-京都連携） ・中南和広域観光協議会 ・奈良県（インバウンド・修学旅行・記紀万葉・大立山等） ・奈良県ビクターズビューロー ・飛鳥認定通訳ガイド育成事業 ・県誘客キャンペーン事業					
事業の目的	本市が中南和地域における観光拠点としての位置づけを高め、周辺市町村も含め広域的な誘客を目的とする。									
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）						
			説明	観光客は本市だけを訪れるのではなく広域的な周遊をするため、市が近隣市町村や団体と連携して誘客を実施する必要がある。						
	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
		説明	観光立市を掲げている本市において、広域観光事業を取りやめることで誘客が滞り観光客が減少する。							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	宿泊客数			148,611	165,800	148,905	183,000	200,000	
	活動指標①	中南和広域観光協議会開催			1	1	2	1	1	
	活動指標②									
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			6,516	5,402	5,195	6,164		
		歳入(b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			6,516	5,402	5,195	6,164		
正職員		従事者数（単位：人）			0.75	0.90	1.15	1.30		
		人件費(c)			4,280	5,136	6,685	7,557		
トータルコスト(a) + (c)			10,796	10,538	11,880	13,721				
単位当たりコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	急激な誘客効果は望めないが、事業実施により広域的に観光客が増加しているものとする。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	宿泊を伴う周遊やインバウンド誘客などは、広域的な連携が必須であるため、観光振興に大きく貢献するものである。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	事業実施にあたっては、団体ごとに負担金等の規約があるためコスト低減は難しい。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		広域的な観光ルートづくりや、広域的なプロモーション活動を周辺自治体だけでなく観光事業者も連携して取組むことで、中南海地域の観光拠点都市としての役割を高め、観光客や宿泊客の増加が期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	広域的な周遊やインバウンド誘客を促進するため、プロモーション事業を拡大し実施する。					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年6月5日）

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業											
P L A N	事務事業名	観光基本計画策定・管理事業									
	担当部名	魅力創造部		担当課名	観光政策課		課長名	細川 長人			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興							
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす							
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る							
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	観光対策費									
事業の開始年度	平成	28	年度	事業の終了予定年度	平成	38	年度				
計 画	対象	観光客及び一般の人			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> 観光統計実態調査の実施及び分析 観光基本計画案の作成 橿原市観光基本計画策定審議会の開催 パブリックコメントの実施 ロードマップの作成 事業者向け橿原市観光基本計画説明会の実施 進捗管理 取組み内容の見直し 					
	事業の目的	今後の本市の経済的、文化的な在り方における観光の位置付けを明確にするため、観光分野における各種の客観的な統計情報を収集し、これらに基づき本市における観光の可能性や方向性、投入すべき財源の規模や求めるべき効果などを観光基本計画として策定し、策定後の計画の進捗管理をすることを目的とする。									
D O 実 施	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）								
	市の関与の必要性を評価してください	説明									
		やめた場合の影響は	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
指 標 の 推 移	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度		30年度	31年度			
				実績	計画	実績	見込み	見込み			
	成果指標	宿泊客数		148,611	165,800	148,905	183,000	200,000			
	活動指標①	審議会開催		2	2	2	1	1			
	活動指標②										
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			252	1,728	17,510	577			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）								
		(a) - (b) = 一般財源			252	1,728	17,510	577			
正職員		従事者数（単位：人）			1.35	1.00	0.85	0.60			
		人件費(c)			7,704	5,707	4,941	3,488			
トータルコスト(a) + (c)			7,956	7,435	22,451	4,065					
単位当たりコスト	計算式等 () / ()										
備考											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2	概ね十分な成果が出ている	3	現時点では十分な成果が出ていない	4	成果がほとんど無く、大幅な改善が必要	
		説明	アクションプランも策定したことで、実行性の高い観光行政の基本計画となっている。								
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2	やや高い	3	やや低い	4	低い	
		説明	本市の観光行政の根幹となる事業であることから、観光の振興に大きく貢献している								
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2	効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3	効率性が低く、改善が必要	4	効率性が低いが、改善が見込めない	
		説明	計画策定後は見直し年度まで、財政的な負担が少ない事業であるので軽減の余地はない。								
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		毎年審議会を開催して観光行政の見直し、改善をしながら、民間事業者と連携を進めることで意欲の高い人材や団体を発掘し、民間主導による観光振興を目指す。								
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2	現状のまま継続	3	縮小する	課内優先度		
説明			4 廃止又は休止する	5	完了する						
		説明	橿原市観光基本計画に準拠した観光行政を進めていけるよう、今後も本事業を継続する。								